

令和 7 年冬季(1~2 月)スルメイカ漁況の見通し

令和 6 年 12 月 23 日

富山県農林水産総合技術センター水産研究所

令和 7 年 1~2 月の富山県沿岸におけるスルメイカ漁獲量は、**平年(過去 10 年平均 640 トン)**をやや上回ると予想される。

<根拠となる考え方>

- 1~2 月に富山県沿岸において、主に定置網で漁獲されるスルメイカは、前年の春季に九州周辺海域で生まれた稚仔イカが日本海に流入し、日本海北部まで索餌回遊したのち、産卵するために南下している途中で富山湾に入り込むものと仮定し、以下の 3 つの関係を用いて予想した。
 - 九州周辺海域の春季の水温が高くなると産卵場が北方に拡大することで、日本海への稚仔イカ流入量が多くなる。
 - 暖かい水を好むスルメイカが冬季に日本海北部を南下する際、能登半島北東海域における冷水塊の張り出しが強いと、沖合の冷たい海域を避け沿岸寄りを通ることで、富山湾内への来遊量が多くなる。
 - 北陸地方(福井県~新潟県)の冬季平均気温が低いと、その年の富山県における 1~2 月のスルメイカの漁獲量が多くなる。

<根拠の情報>

- 改良版我が国周辺の海況予測システム(FRA-ROMS II)によると、①九州周辺海域の令和 6 年 5 月の水深 10m 平均水温は 18.57℃で、平年値(17.86℃)より 0.71℃高く、②能登半島北東海域の令和 6 年 12 月上旬の水深 50m 平均水温は 14.61℃で、平年値(14.28℃)より 0.32℃高かった。
- 新潟地方气象台が令和 6 年 11 月 19 日に発表した北陸地方の 12~2 月の天候の見通しでは、③気温は平年並みと予報されている。

<予想結果>

- 九州周辺海域の 5 月水温からは日本海への稚仔イカ流入量が多いものの、能登半島北東海域の 12 月上旬水温からは富山湾への来遊量が少なくなり、これらの関係から導き出された計算式では、令和 7 年 1~2 月の富山県沿岸におけるスルメイカ漁獲量は 765 トンと計算された(図)。

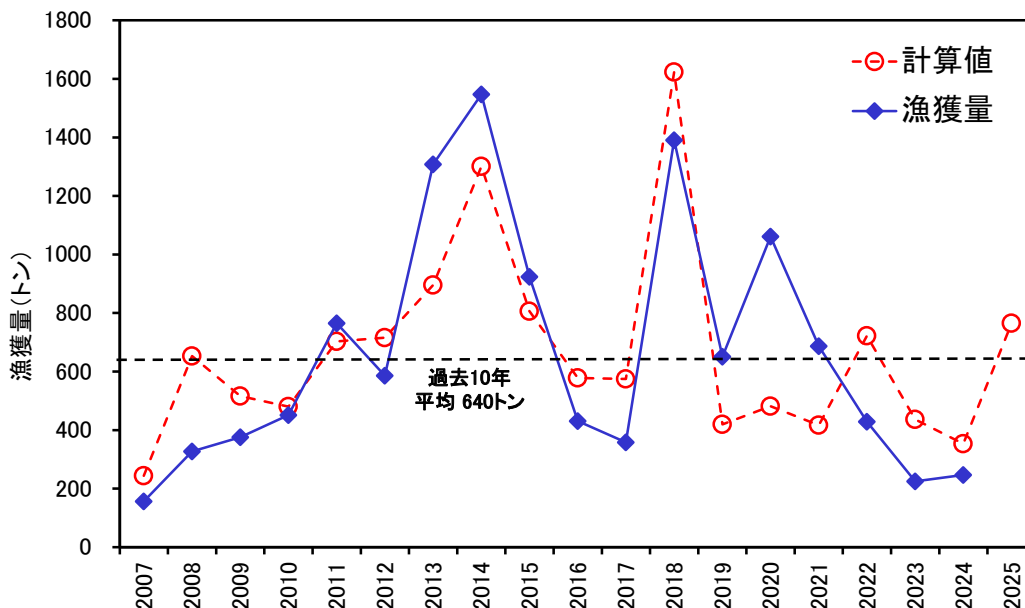


図 富山県沿岸における 1~2 月のスルメイカ漁獲量と計算値